TEAM LAND CRUISER
TOYOTA AUTO BODY

2022年1月15日
トヨタ車体株式会社

ダカールラリー2022　市販車部門９連覇達成！

～ランドクルーザー200　ダカールラリーラストランで有終の美～

トヨタ車体株式会社（本社：愛知県刈谷市　代表取締役・社長：増井 敬二）のラリーチームであるチームランドクルーザー・トヨタオートボデー（以下、TLC）は、2022年1月2日から1月14日に開催された『ダカールラリー2022 サウジアラビア』市販車部門で1号車（ゼッケンNo.242）の三浦/リシトロイシター組が優勝、2号車（ゼッケンNo.245）のバソ/ポラト組が準優勝し、ワン・ツーフィニッシュで市販車部門9連覇を達成しました。また、今大会でTLCのランドクルーザー200シリーズでの参戦はラストランを迎えました。応援してくださった皆さまにお礼申し上げます。

TLCは、2009年大会から14年間にわたりランドクルーザー200シリーズでダカールラリーに参戦し、12回の優勝と2回の準優勝を獲得。世界中のお客様に、ランドクルーザーが持つ悪路走破性を長年にわたり証明し続けてきました。当社は、今後もダカールラリーを起点とした「もっといいクルマづくり」に挑戦し続けます。

【今大会の結果】

号車	ゼッケン No.	車両	ドライバー	ナビゲーター	順位	
					市販車部門	総合*2
1号車	242	ランドクルーザー 200	三浦 昂(あきら)*1	ローラン・リシトロイシター	1	38
2号車	245		ロナルド・バソ	ジャン・ミッシェル・ポラト	2	43

*1　トヨタ車体社員(総務部広報室所属)
*2　1月15日8時時点

【今大会のルートおよびTLCの戦況】

今大会で3年目となる中東サウジアラビア王国での開催。十分な新型コロナウイルス感染予防策の中で競技日程が進められました。ルートはサウジアラビア南部を中心に設定され、連なる広大な砂丘群や急傾斜のダウンヒル・岩場が待ち構え、複数の車両が転倒やパンクに見舞われました。

TLCは、市販車部門１、2位でスタートしたものの、2日目のステージでは、2号車が右後輪をパンクさせたほか、通過を義務付けられたウェイポイントを見つけられず、3位に後退しました。その後は今年から採用したTOYO TIRES製の力強いグリップ力を最大限に発揮する走りで徐々にペースを上げ、ワン・ツー態勢を堅守し前半を終えました。

中間日には、メカニック陣が入念な点検整備を行い、後半戦に備えて車両を徹底的にリフレッシュしました。

後半戦は、柔らかな砂塵が舞い視界を遮られる砂漠地帯が中心のルートとなりました。今大会最長の800㎞を越えるステージも用意されるなど、前半以上に難易度の高いルートとなりました。

1号車は、後半初日の7日目も好調を保ったままノースタック、ノーパンクで無事ゴール。2号車は砂丘越えで落ちるように地面に激しく着地しましたが、幸い車両に大きなダメージはなく、そのまま走り抜くことができました。11日目の難関砂丘ステージでは、1号車が4本のパンクを喫しましたが、車両には規定に合わせて3本しかスペアタイヤを積んでいないため、2号車からスペアタイヤをもらって完走を果たすなど、チームワークでワン・ツーフィニッシュを果たしました。市販車部門の完走率は40.0%でした。

【コメント】

◆トヨタ車体　代表取締役・社長　増井 敬二

ランドクルーザー200でのダカールラリーラストランとなる大会で、市販車部門9連覇を達成することができ大変嬉しく思います。今大会は例年以上に難易度が高いルートだったことに加え、降雨により路面が荒れトラブルに見舞われた競技車も多く、戦況を固唾を飲んで見守っていました。このような状況の中、TLCの2台は8000㎞以上を走破し、ワン・ツーフィニッシュを果たしてくれました。いつもTLCを支えてくれているパートナー企業の皆さま、ファンの皆さま、ランドクルーザーに関わるすべての皆さまに感謝を伝えるとともに、この喜びを分かち合いたいと思います。そして今大会においても、ランドクルーザーが「どこへでも行き、生きて帰ってこられるクルマ」であることを証明することができました。TLCのランドクルーザー200でのダカールラリー参戦は今年で最後となります。14年間にわたり「もっといいランクルづくり」のヒントを与え続けてくれた愛車に感謝するとともに、当社はこれからもダカールラリーを起点とした「もっといいクルマづくり」を進めてまいりますので、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

◆チーム代表　本多　篤　（トヨタ車体　コーポレート本部　領域長）

今大会、最大の目標であるランドクルーザー200ラストランでV9を達成してくれた、TLCメンバーとランドクルーザー200に「最後まで走り切ってくれてありがとう」と伝えたいと思います。新型コロナウイルスが世界的に広がり、チーム活動が満足に行えない中でも、チーム一丸となってできる限りラリー車の性能を高め、ラリー本番では角谷監督をはじめチーフメカニックや、日仏メカニック、カミオンクルー、三浦ドライバーはじめ4人の選手たちが、自分を信じて、そしてクルマを信じてワンチームで戦い、素晴らしい結果を届けてくれたことに感謝したいと思います。今後我々は、ランドクルーザー200に代わり、昨年発表されたランドクルーザー300でのダカールラリー参戦という新たな挑戦を始めていきます。ランドクルーザー200が残してくれた9連覇という偉大な功績をランドクルーザー300でも継承し、世界中の皆さまにランクルのポテンシャルを見ていただけるよう努力してまいります。1年間のご支援とご声援ありがとうございました。

◆チーム監督　角谷 裕司（トヨタ車体 総務部広報室　社員）

ワン・ツーフィニッシュで市販車部門9連覇を達成することができて心からうれしいです。これは、ランドクルーザー200の高いポテンシャルのおかげであることはもちろんですが、今年新たに仲間に加わったTOYO TIRES製のタイヤによる安定かつ力強い走りが導いてくれた結果だと感じています。現地で悪路によるスタックやパンクなどのトラブルに見舞われた際も、チームメンバー全員が「絶対にランドクルーザー200で9連覇を達成する」という強い気持ちで粘り強く対応するなど、素晴らしいチームでラリーを戦えたことを誇りに思います。そして、ランクルファンの皆さんに2022年はじめの明るいニュースをお届けできたことを光栄に思います。ラリー期間中、たくさんの応援メッセージをいただき本当にありがとうございました。

◆ １号車（ゼッケンNo.242）ドライバー　三浦 昂 （トヨタ車体 総務部広報室　社員）

私たちの242号車で、ランドクルーザー200のラストランに「9連覇」という最高のゴールをプレゼントすることができて、本当にうれしいです。自分のダカールラリー人生は、ランドクルーザー200がなければ語ることができません。これまで14年間、どんな道もランドクルーザー200で乗り越え、走り抜き、気が付けば約110,000km以上、地球3周ほどの距離を走ってきました。ランドクルーザー200とともに得た学びを積み重ねてきたからこそ、ここまで走り続けることができ、9連覇を達成することができたと思っています。これまでのダカールラリー参戦で得た経験やノウハウを、来年からは新型のランドクルーザー300に引継ぎ、10連覇という新たなチャレンジを、チームメンバー一丸となって目指していきたいと思います。たくさんのご声援ありがとうございました。

◆ １号車（ゼッケンNo.242）ナビゲーター　ローラン・リシトロイシター

まずは、ランドクルーザー200ラストランという節目の年を9連覇で飾ることができ、また、自分がその連覇に貢献できたことをとてもうれしく思います。TLCのメンバーになってから、ずっとランドクルーザー200とともに戦ってきました。今年はTOYO TIRES製のタイヤという武器を手に入れたおかげで、スタックやパンクをすることなく通過できたステージもありました。ナビが難しいルートではありましたが、素晴らしい走りができた大会でした。TLCはチームメンバーの結束も強く、年々いいチームになってきていると感じます。来年以降も、経験を活かしてチームの連覇に貢献していけるよう、努力を重ねていきたいと思います。

◆ ２号車（ゼッケンNo.245）ドライバー　ロナルド・バソ

チームの連覇に貢献することを目標に、1号車と切磋琢磨して走りました。今大会は降雨など自然環境の厳しさとの戦いに加え、市販車部門のクルマでは走り切れないのではと思うほど、困難なルート設定により苦戦が強いられましたが、ランドクルーザーの強靭な耐久性と悪路走破性があったからこそ走り切れたと感じています。途中、タイヤのパンクなどのトラブルによりタイムロスして順位を落としてしまう日もありましたが、1号車をはじめ、ナビのポラト、日仏メカニック、サポートクルーの団結力で、無事ワン・ツーフィニッシュでゴールすることができて心からほっとしています。たくさんの応援ありがとうございました。

◆ ２号車（ゼッケンNo.245）ナビゲーター　ジャン・ミッシェル・ポラト

私の長いダカールラリー参戦歴の中でも市販車部門での挑戦はまだ2年目ですが、ランドクルーザーはタフネスという点では改造車にも負けていません。ハイスピードな展開では苦しい場面もありますが、今回の様な難易度の高い、忍耐を要するセクションでは十分に総合争いができたと思います。TLCは、2台が協力し合うことで目標を達成するチームです。今回も1号車と力を合わせ何度かあったピンチをクリアし、市販車部門連覇にたどり着きました。もちろん、チームスタッフをはじめ、世界中のランクルファンと日本からの熱い応援のおかげでもあります。みなさんの気持ちを連覇という形にできたことが最大の喜びです。

◆日本人メカニック　中武　佑太（福岡トヨタ自動車）

ワン・ツーフィニッシュでの9連覇達成に貢献できて、とてもうれしく思います。これまで、日本人メカニックの多くは2回ダカールラリーを経験したら次のメカニックへバトンタッチしてきましたが、今回3回目のダカールラリーメカニックのチャンスをいただけたので、「このチャンスを絶対に無駄にしてはいけない」と新人の時のように気を引き締めてサウジアラビアに入りました。フランス人メカニックや、今年から仲間に加わった穴見メカニックと連携しながら、夜を徹して整備するなど、今回も様々な経験を積むことができました。無事2台がゴールを迎え、素晴らしい結果を手にすることができて、心から安堵しています。ダカールラリーの緊張感も少し楽しめたように思います。日本からの熱いご声援ありがとうございました。

◆日本人メカニック　穴見　直樹（福岡トヨタ自動車）

市販車部門9連覇に少しでも貢献することができて、心からうれしいです。今回が自分にとって初めてのダカールラリーで、最初はすごく緊張しました。モロッコラリーでチームに帯同しましたが、やはりダカールラリーは現地の空気感などが全然違いました。しかし、中武メカニックやフランス人メカニックに、メンタルの面や技術の面でもサポートしてもらうことで、戸惑いつつもやりきることができたと感じています。毎日同じことは一つもなく、今まで体験したことのない環境の中で、夜通し整備をしたことは日本では得られない経験だったと思います。来年までにやるべき課題が見えてきたので、この1年さらに勉強していきたいと思います。応援していただいた皆さん、ありがとうございました。

（参考1）参加台数と完走台数　　（1月15日8時時点）

部門	参加台数	完走台数	完走率
4輪部門（市販車・改造車）	188	156	83.0%
2輪部門（バイク）	164	131	79.9%
トラック部門	56	33	58.9%
ダカールクラシックカー	142	129	90.8%
合計	550	449	81.6%

（参考2）過去の戦歴

開催年	'95-'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22
使用車両	ランドクルーザー　80('95-'98) ランドクルーザー100('99-'04)	ランドクルーザー100				ランドクルーザー200													
成績	市販車部門 ディーゼルクラス優勝 7回	市販車部門 **優勝**			大会中止	市販車部門 **優勝**			市販車部門 2位		市販車部門 **優勝**								
備考	アラコとして参戦	トヨタ車体として参戦																	

6連覇　　**9連覇**

【本件に関する問い合わせ先】

トヨタ車体株式会社　総務部広報室 ダカールラリー推進グループ　　担当:荒川、日比

■TEL:0566-36-2129、080-5815-2106

■E-mail：TAB.SPORTS@mail.toyota-body.co.jp

■TLCダカールラリー2022特設サイト：https://www.toyota-body.co.jp/dakar/season2022/special.html

世界のくらしに　笑顔を届けたい